YAMAHA

J

A-S1000

プリメインアンプ



ヤマハプリメインアンプA-S1000をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前に取扱説明書と「安全上のご注意」、保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

取扱説明書

保証書別添付

生命を吹き込む

弾き手の心を映し出すピアノは高度な技術力と人の芸術的感性が美しく調和して生まれます。

ピアノに楽器としての命を吹き込む最終工程が「整音」と呼ばれる作業です。

熟練した技術者が一音一音に全神経を集中し、弦を打つハンマーの硬さや弾力を微妙に調整することで 88 の鍵盤すべての音色と響きを完璧な状態に揃えていく、息の詰まるような時間。研ぎ澄まされた人間の感性が音を決めていきます。それはオーディオ機器でも何ら変わりません。試聴を重ね、あらゆる構成要素を入念に検討し、設計者が描く理想の音へ一歩、また一歩と近づいていくのです。

100 余年間、音と歩んできたヤマハの伝統が、すべてのヤマハオーディオ機器に息づいています。



オーディオの歩み

1920-1960s

- 1922 年：高級手巻蓄音機を世に出す
  1955 年以来、数々のハイファイ機器（レコードプレーヤー、チューナー、プリメインアンプ、コントロールアンプ、パワーアンプやスピーカー）を発売
  NS-20 モニタースピーカー

1970s

- **CA-1000 プリメインアンプ**
  A クラス動作プリメインアンプのスタンダード
  NS-690 モニタースピーカー
  NS-1000M モニタースピーカー
  ハイファイファンに現在でも愛される伝説のスピーカー
  B-1 パワーアンプ
  全段に FET を採用した革新的なパワーアンプ
  C-2 コントロールアンプ
  ミラノ国際音楽ハイファイショーで最高賞を受賞
  NS-10M スタジオモニタースピーカー
  世界で最も普及したスタジオモニター
  A-1 プリメインアンプ
  PX-1 レコードプレーヤー
  ヤマハ初のリニアトラッキング式レコードプレーヤー

1980s

- **B-6 パワーアンプ**
  X 電源、X アンプ搭載のピラミッド型パワーアンプ
  GT-2000/L レコードプレーヤー
  GT 思想を具現化した超精密重量級プレーヤー
  CD-1 初の CD プレーヤー発売（1983 年）
  B-2x パワーアンプ
  MX-10000 パワーアンプ、CX-10000 コントロールアンプ
  セパレート機器の能力の定義を変えたアンプ
  100 周年記念モデル
  AX-2000 プリメインアンプ
  128dB の高 S/N 比、デジタルダイレクト機能搭載

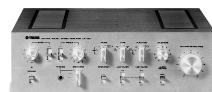
1990s

- **GT-CD1 CD プレーヤー**
  一体型セパレート構造を持つトップエントリー式プレーヤー
  MX-1 パワーアンプ、CX-1 コントロールアンプ

2000s

- **Soavo-1、Soavo-2 ナチュラルサウンドスピーカーシステム**
  A-S2000 プリメインアンプ、CD-S2000 スーパーオーディオ CD プレーヤー
  A-S1000 プリメインアンプ、CD-S1000 スーパーオーディオ CD プレーヤー


NS-20



CA-1000


NS-690



NS-1000M


B-1


C-2


PX-1



NS-10M


B-6


GT-2000


AX-2000



GT-CD1


Soavo-1


Soavo-2

A-S1000

◆ フローティング・バランス回路設計

完璧な対称性を実現した全く新しいフローティング・バランス・パワーアンプは、アナログアンプの能力を最大限に引き出します。

◆ パラレル・ボリューム＆トーンコントロール

◆ 独立４回路の大容量電源

◆ 左右対称の構造設計

◆ 完全ディスクリート構成のフォノアンプ

◆ 振動を抑制する新開発の重量型脚部

■ 付属品

同梱されている付属品をご確認ください。

- リモコン
- 単 3 乾電池（2 本）
- 電源コード
- 安全上のご注意（別冊）

もくじ

■ 本書の記載について

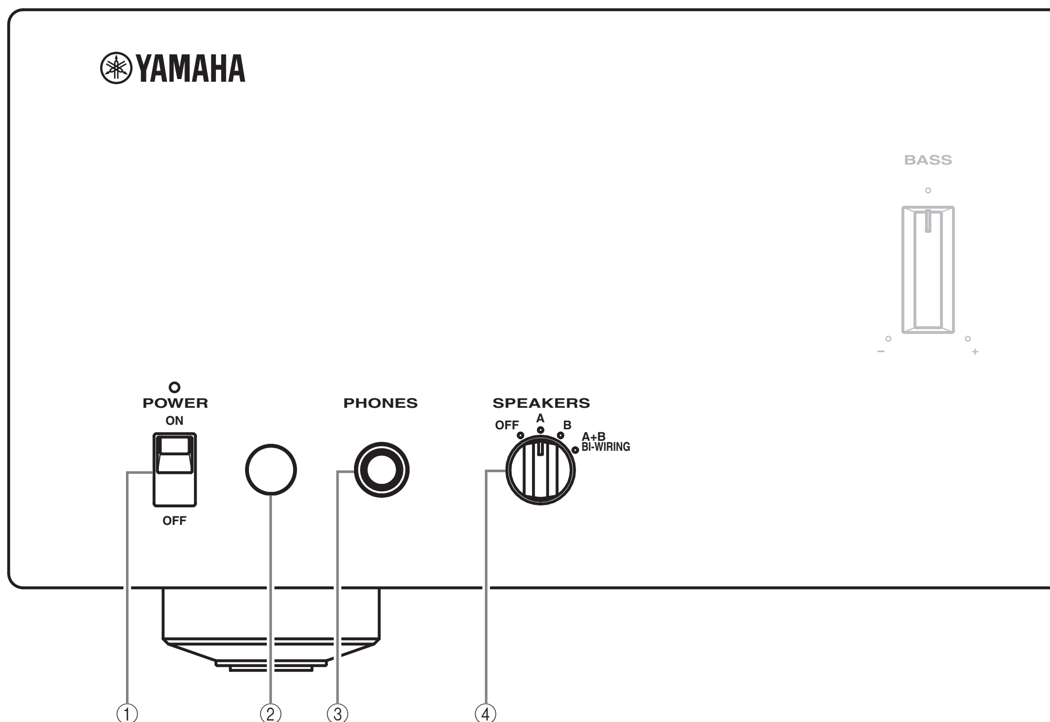
- 「ご注意」では操作をするときの留意すべき事項、☀ では知っておくと便利な補足情報が記載されています。
- 本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。
- 写真はイメージです。実際とは異なります。
- 本機をご使用になる前に、別冊の「安全上のご注意」を必ずお読みください。

A-S1000
各部の名称と機能

この章では、フロントパネル、リアパネル、リモコンの各部の名称および機能について説明しています。

各部の名称と機能

■ フロントパネル（左側）



① POWER（電源）スイッチ／インジケーター

本機の電源を ON（オン）/OFF（オフ）します。



本機の電源がオンのとき、POWER インジケーターが点灯します。

ご注意

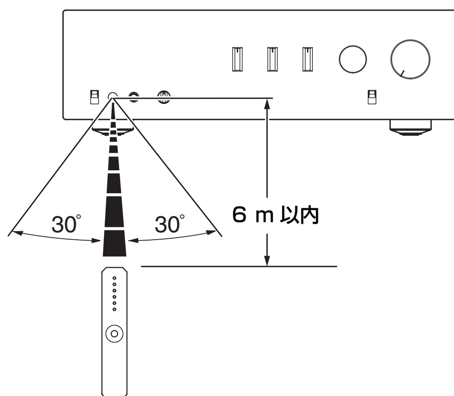
- 本機の電源をオンにしたときに POWER インジケーターが点滅した場合は、電源ケーブルを抜いて、「故障かな？と思ったら」（24 ページ）をご覧ください。
- 本機の電源をオンにしてから音声が再生されるまでには数秒間の遅れがあります。

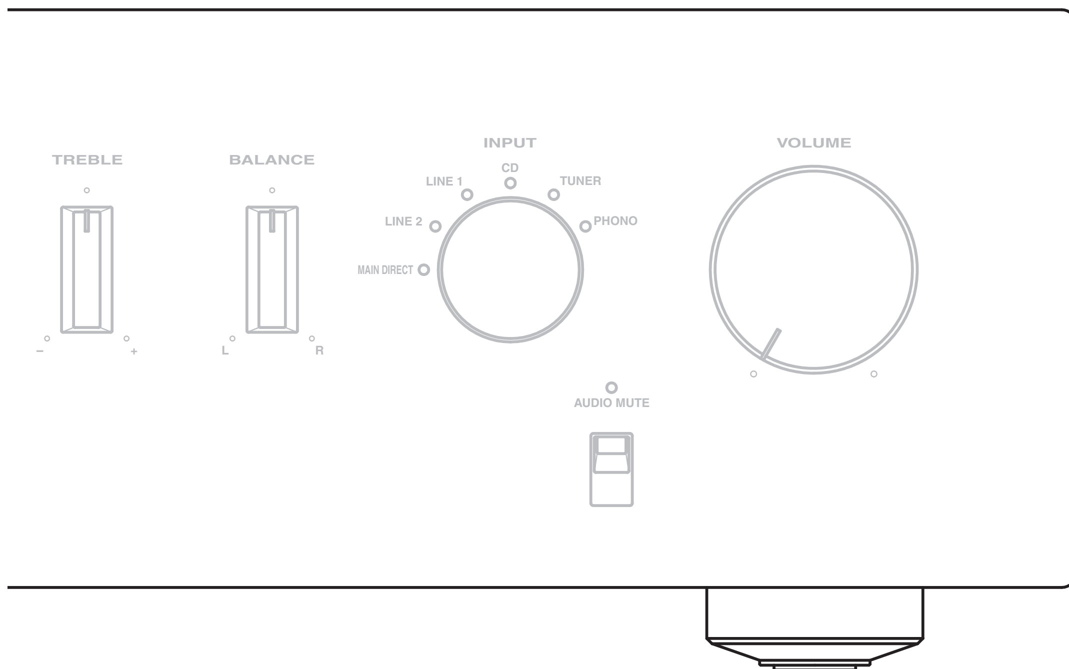
② リモコン受光部

リモコンの信号を受信します。



リモコンは指向性のある赤外線を送信します。リモコンは必ず本体のリモコン受光部に向けて操作してください。





③ PHONES 端子

ヘッドホンで音楽を楽しむための信号を出力します。

ご注意

ヘッドホンを接続すると本機の状態は次のようになります。
- SPEAKERS L/R CH A と B 端子に接続されたスピーカーからは音は出ません。
- REC 端子からは信号は出力されますが、PRE OUT 端子からは信号が出力されなくなります。
- 入力ソースとして MAIN DIRECT を選択できなくなります。
- 入力ソースとして MAIN DIRECT が選ばれているときにヘッドホンを PHONES 端子に接続しても、PHONES 端子からは信号が出力されません。MAIN IN 端子に接続したプリアンプなどのヘッドホン端子をお使いください。

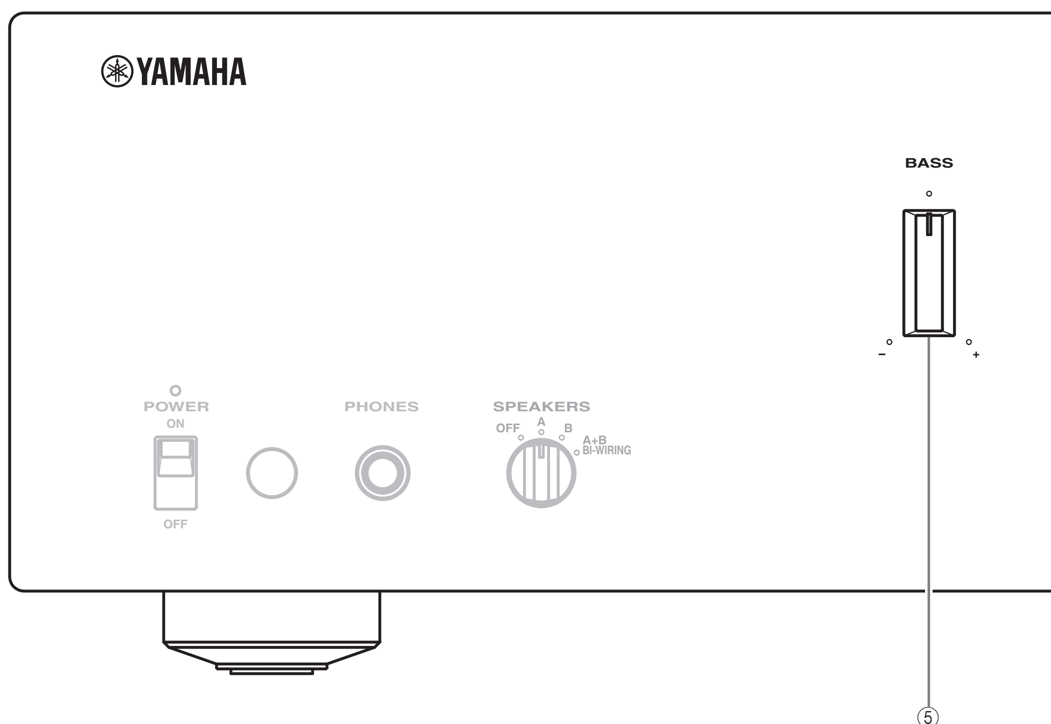
④ SPEAKERS セレクター

リアパネルの SPEAKERS L/R CH A と B 端子に接続されたスピーカーをオン／オフします。
- OFF に切り替えると、スピーカーを両組ともオフします。
- A または B に切り替えると、SPEAKERS L/R CH A または B 端子のどちらかに接続された組のスピーカーのみをオンにします。
- A+B BI-WIRING に切り替えると、スピーカーを両組ともオンします。

重要

２組のスピーカー（A+B）を使用する場合は、インピーダンスが８ Ω 以上のスピーカーをお使いください。１組のスピーカー（A または B）だけを使用する場合は、インピーダンスが４ Ω 以上のスピーカーをお使いください。

■ フロントパネル（右側）



⑤ BASS（バス）（低音）つまみ

低音特性を増減します。センターポジションで特性がフラットになります。
調整範囲：－９ dB ～＋９ dB

⑥ TREBLE（トレブル）（高音）つまみ

高音特性を増減します。センターポジションで特性がフラットになります。
調整範囲：－９ dB ～＋９ dB



BASS と TREBLE を両方センターポジションにすると、音声信号はトーンコントロール回路をバイパスします。

ご注意

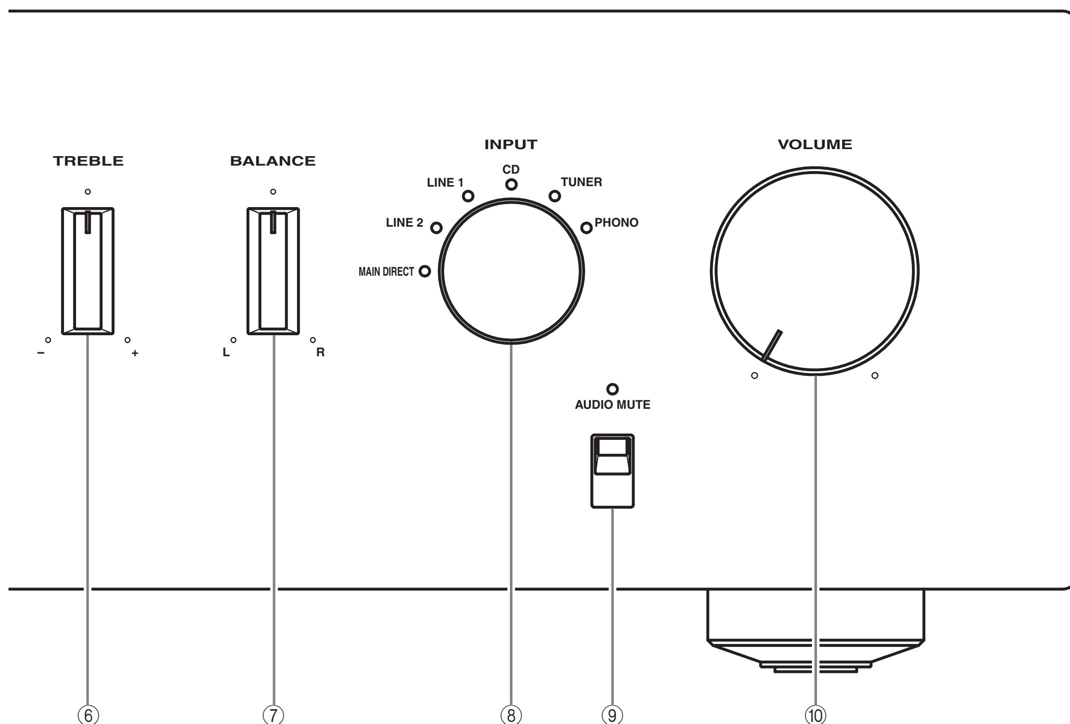
BASS と TREBLE の設定は MAIN IN 端子の入力信号（INPUT セレクターの MAIN DIRECT）と REC OUT 端子の出力信号には影響しません。

⑦ BALANCE（バランス）つまみ

左右のスピーカーの音声出力バランスを調整することで、スピーカーの位置や室内の条件による音のアンバランスを補正します。

ご注意

BALANCE の設定は MAIN IN 端子の入力信号（INPUT セレクターの MAIN DIRECT）と REC OUT 端子の出力信号には影響しません。



⑧ INPUT（入力）セレクター

聞きたい入力ソースを選択します。
選択した入力ソースの音声信号は REC 端子にも出力されます。



- 入力ソース名はリアパネルの接続端子名に対応しています。
- MAIN DIRECT に切り替えると、MAIN IN 端子に接続された機器を選択します。入力ソースに MAIN DIRECT を選択すると、PRE OUT、REC、PHONES の各端子からは音声信号が出力されません。
- 入力の設定は、電源をオフにした後も約 1 週間保持されます。

ご注意

LINE 2 を選択している間は、REC 端子から音声信号が出力されません。

⑨ AUDIO MUTE スイッチ／インジケーター

下方向に押し下げると、音量が現在のレベルから約 20dB 低下します。再度押し下げると音量はもとのレベルに戻ります。



- ミュート機能をオンにすると AUDIO MUTE インジケーターが点灯します。
- フロントパネルの VOLUME を回すかリモコンの VOL +/ −を押すと、ミュート機能は解除されます。

⑩ VOLUME（音量）コントロール

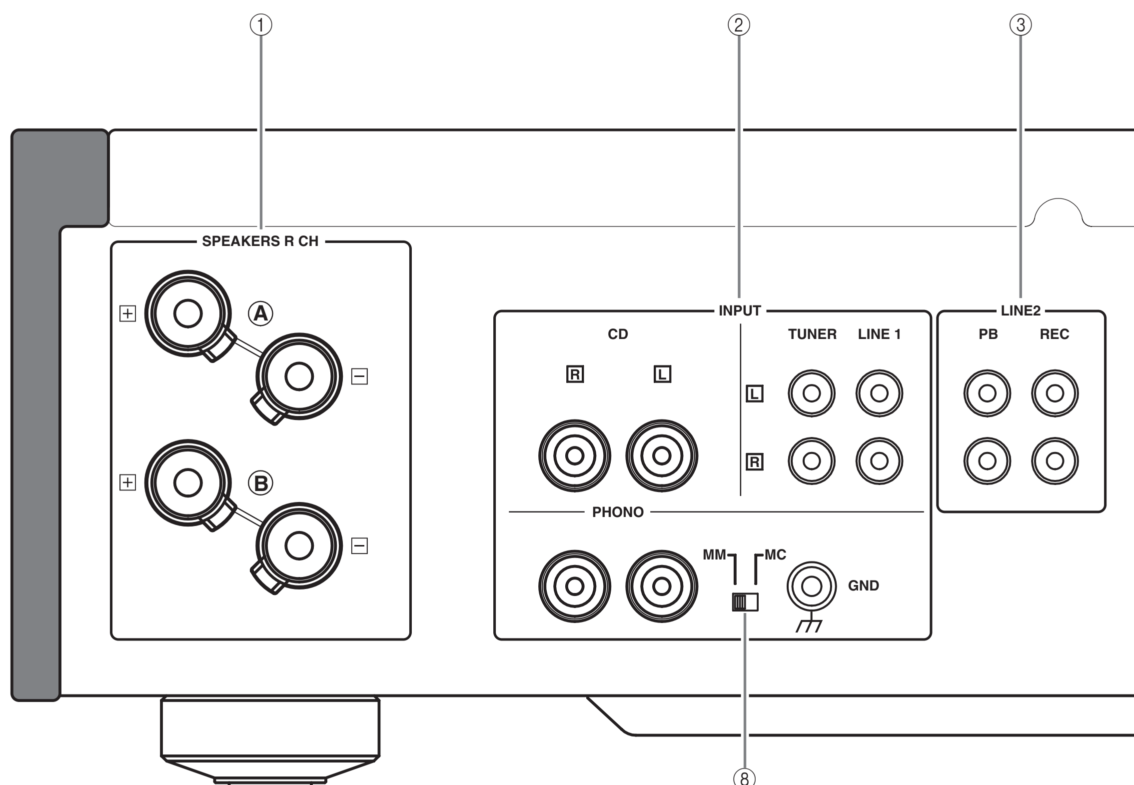
音量レベルを調節します。この調節は REC レベルには影響しません。

ご注意

入力ソースに MAIN DIRECT を選択しているときは、本機の VOLUME 調節は音量に影響しません。この場合は、MAIN IN 端子に接続されたプリアンプの音量つまみで音量を調節してください。

各部の名称と機能

■ リアパネル



接続に関しては 14 ページをご覧ください。

① SPEAKERS L/R CH（スピーカー左右チャンネル）端子

② INPUT（入力）端子

③ LINE2 端子

④ MAIN IN（メイン入力）端子

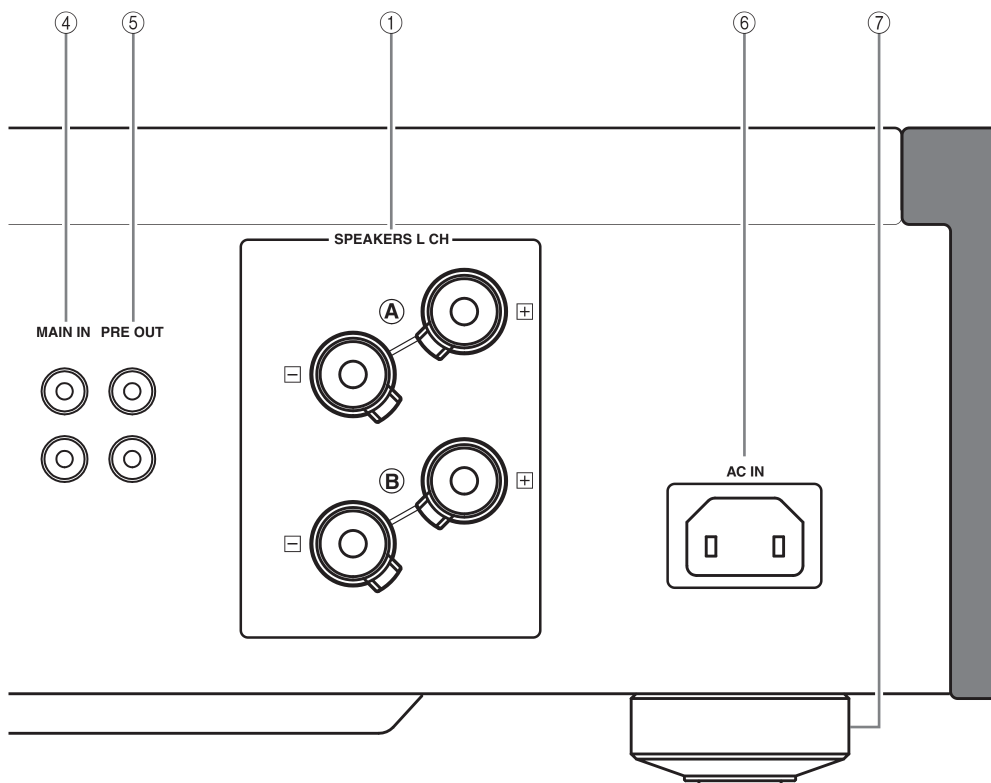
ご注意

本機の入力ソースに MAIN DIRECT を選択しているときの音量調節は、MAIN IN 端子に接続されたプリアンプの音量つまみで調節してください。

⑤ PRE OUT 端子



- 外部アンプでスピーカーを駆動するために PRE OUT 端子にオーディオピンプラグを接続する場合は、SPEAKERS L/R CH 端子を利用する必要はありません。
- PRE OUT 端子から出力される信号に対しても、BASS と TREBLE の設定は有効です。
- PRE OUT 端子から出力される信号は、SPEAKERS L/R CH 端子に出力される信号と同じチャンネルの信号です。
- サブウーファーを使用する場合は、サブウーファーを PRE OUT 端子に接続し、スピーカーを SPEAKERS L/R CH 端子に接続します。



⑥ AC IN 端子

付属の電源コードを接続します。
電源コードの接続については、18 ページをご覧ください。

⑦ 脚

本機が不安定な場合には、脚を回して高さを調整できます。

⑧ PHONO スイッチ

リアパネルの PHONO 端子に接続されたレコードプレーヤーのカートリッジの種別を選択します。

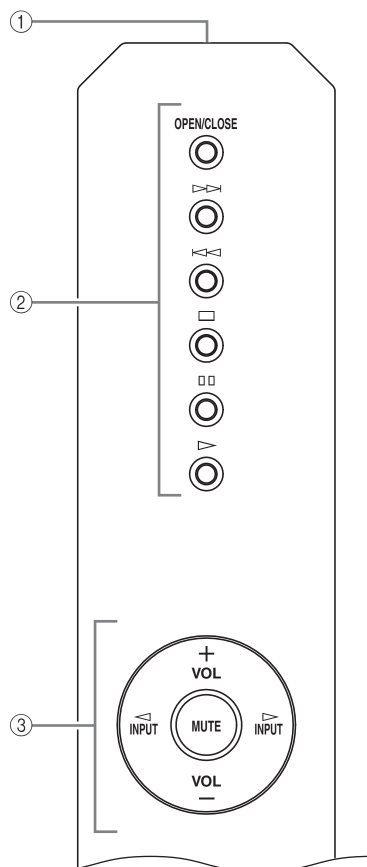
- 接続したレコードプレーヤーが MM カートリッジを使用している場合は、MM にします。
- 接続したレコードプレーヤーが MC カートリッジを使用している場合は、MC にします。

ご注意

カートリッジを交換する際には、必ず本機の電源をオフにしてください。

各部の名称と機能

■ リモコン



① **赤外線信号送信部**
本体に向かって赤外線信号を送信します。

② **ヤマハ製 CD プレーヤー操作キー**
ヤマハ製の CD プレーヤーを操作します。CD プレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

ヤマハ製の CD プレーヤーであっても、一部操作できない機器があります。

③ **アンプ操作キー**

INPUT（インプット） ◁/▷ キー
再生する入力ソースを選択します。

ご注意

- 入力ソースに MAIN DIRECT を選択すると、PRE OUT、REC の各端子からはオーディオ信号が出力されません。
- 入力ソースに MAIN DIRECT が選ばれているときにヘッドホンを PHONES 端子に接続しても、PHONES 端子からは信号が出力されません。

VOL（ボリューム） +/ －（音量 +/ －）キー
音量レベルを調節します。

ご注意

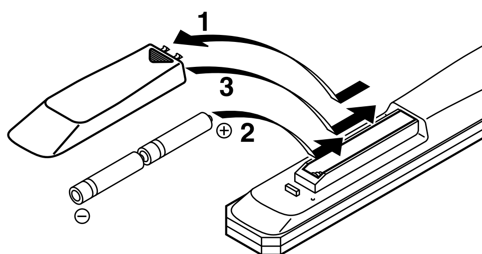
入力ソースに MAIN DIRECT を選択しているときは、VOL +/ －を押しても音量は変化しません。MAIN IN 端子に接続されたプリアンプの音量つまみで音量を調節してください。

MUTE（ミュート） キー
音量が現在のレベルから約 20dB 低下します。再度押すとオーディオ出力の音量はもとのレベルに戻ります。



リモコンの VOL +/ －を押してもとの音量に戻すこともできます。

■ リモコンに電池を入れる



1 バッテリーカバーの ▽ マークを押しながら、カバーをリモコンから取り外す。

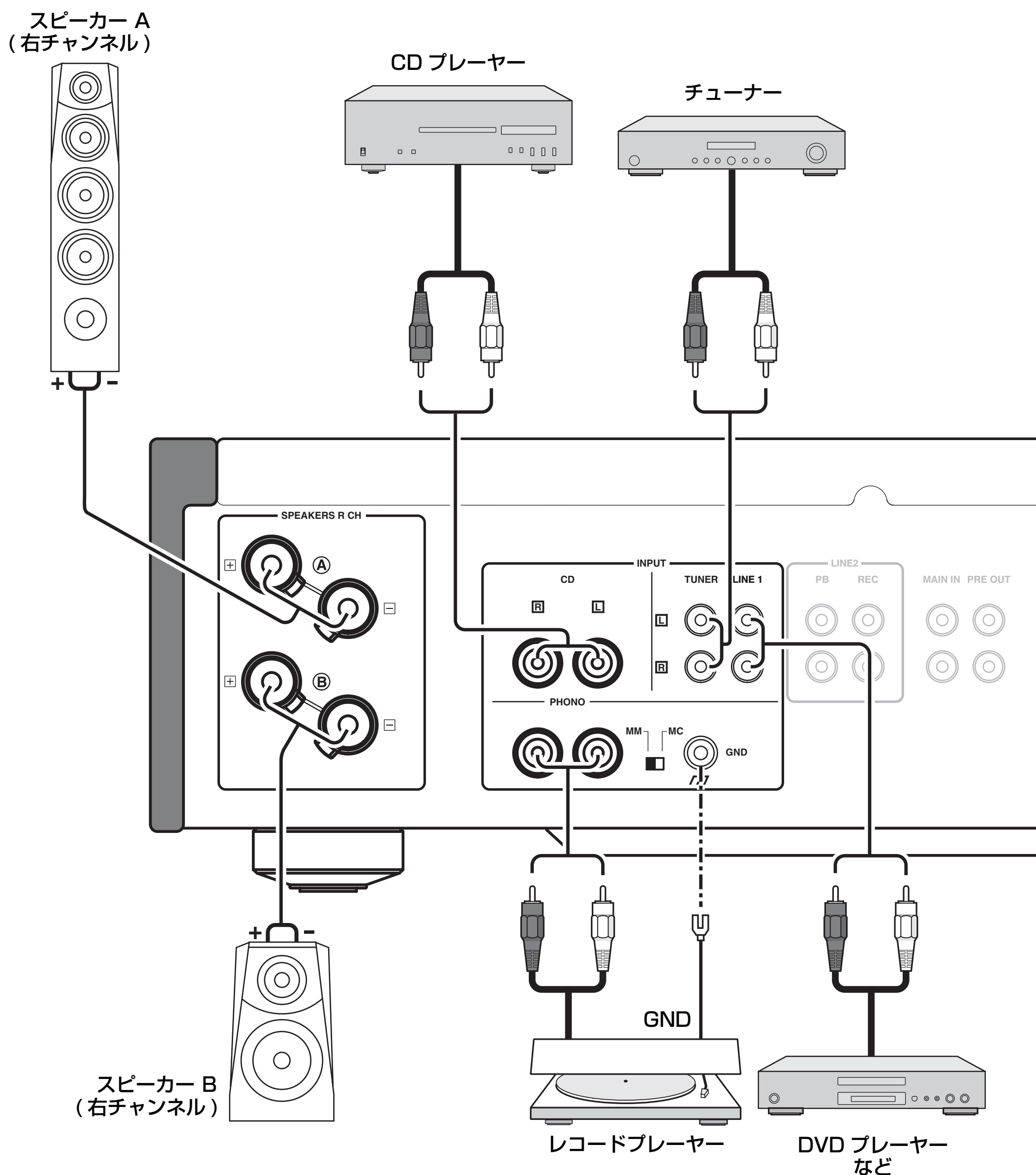
2 電池ケース内に記載されている極性（＋／－）にしたがって、単 3 乾電池（2 本）を電池ケースに挿入する。

3 バッテリーカバーをリモコンに装着する。

A-S1000
接続

この章では、A-S1000、各スピーカー、ソース機器間の接続について説明しています。

接続



注意

- ２組のスピーカー（A+B）を使用する場合は、インピーダンスが８ Ω 以上のスピーカーをお使いください。１組のスピーカー（A または B）だけを使用する場合は、インピーダンスが４ Ω 以上のスピーカーをお使いください。
- スピーカーケーブルの裸線部は、他のスピーカーケーブルの裸線部または本機の金属部分とは接触させないでください。本機やスピーカーが損傷することがあります。
- すべてのケーブルは、L（左）は L に、R（右）は R に、「+」は「+」に、「−」は「−」にと正しく接続してください。接続を誤るとスピーカーからは音が出ません。また、スピーカーの極性を誤って接続すると音が不自然になり、低音が不足して聞こえます。個々の機器の接続については各機器の取扱説明書も参照してください。
- レコードプレーヤーを接続する場合、信号のノイズを低下させるため、GND 端子も接続してください。ただしレコードプレーヤーによっては、GND 端子を接続しないほうがノイズが低下する場合もあります。

プリアンプ、
AV アンプなど

外部アンプまたは
アクティブサブウーファー

プリアウト

スピーカー A
(左チャンネル)

SPEAKERS L CH

INPUT TUNER LINE 1

LINE2 PB REC

MAIN IN PRE OUT

MM MC GND

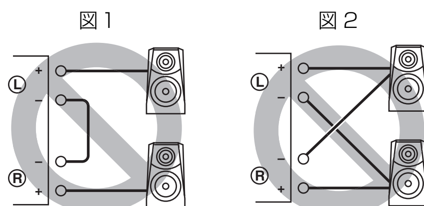
AC IN

スピーカー B
(左チャンネル)

CD レコーダー、
テープデッキなど

注意

- A-S1000 のパワーアンプ部はフローティングバランスタイプなので、下記のような接続は行なえません。
  - 左右チャンネルの「+」端子どうしや「−」端子どうしを接続する（図 1）。
  - 左右チャンネルの「−」端子と本機リアパネルの金属部分とを接続または接触させる。
  - 左チャンネルの「−」端子と右チャンネルの「−」端子を逆接続（クロス接続）する（図 2）。
- アクティブサブウーファーを SPEAKERS L/R CH 端子に接続しないでください。サブウーファーは本機の PRE OUT 端子に接続してください。



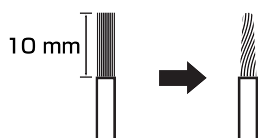
接続

重要

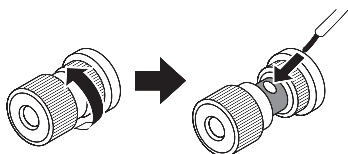
２組のスピーカー（A+B）を使用する場合は、インピーダンスが８ Ω 以上のスピーカーをお使いください。１組のスピーカー（A または B）だけを使用する場合は、インピーダンスが４ Ω 以上のスピーカーをお使いください。

■ スピーカーを接続する

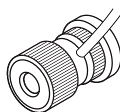
1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を、約１０ mm はがし芯線をしっかりとよじる。



2 スピーカー端子を左に回してゆるめ、横の穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。

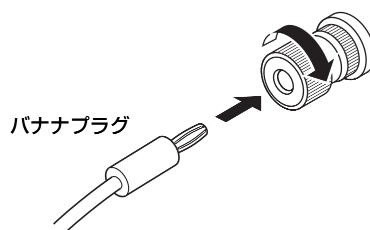


3 スピーカー端子を右に回して、締め付ける。



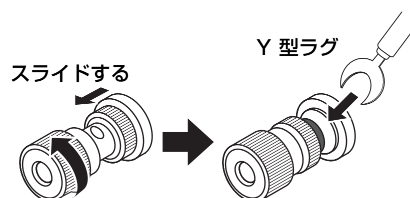
■ バナナプラグを使ってスピーカーを接続する

バナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

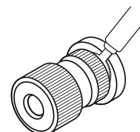


■ Y 型ラグを使ってスピーカーを接続する

1 つまみのねじを緩め、リング部と基部の間に Y 型ラグをはさむ。



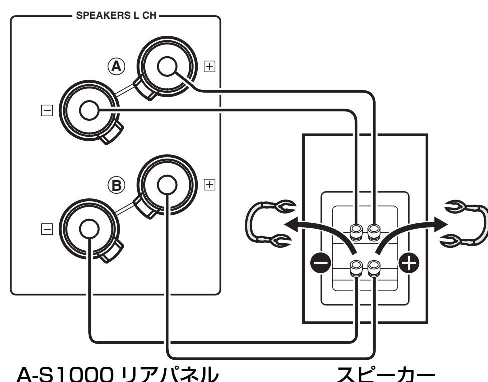
2 スピーカー端子を締める。



■ バイワイヤリング接続する

バイワイヤリング接続により、ウーファーを中高音部から分離させることができます。バイワイヤリング接続対応スピーカーには４個の接続端子があり、これらの２組の端子によってスピーカーを独立した２部分に分割できます。この接続では、中高音ドライバーを１組の端子に、低音ドライバーをもう１組の端子に接続します。

バイワイヤリング接続の例（左チャンネル）



重要

バイワイヤリング接続する場合は、インピーダンスが4Ω 以上のスピーカーをお使いください。

ご注意

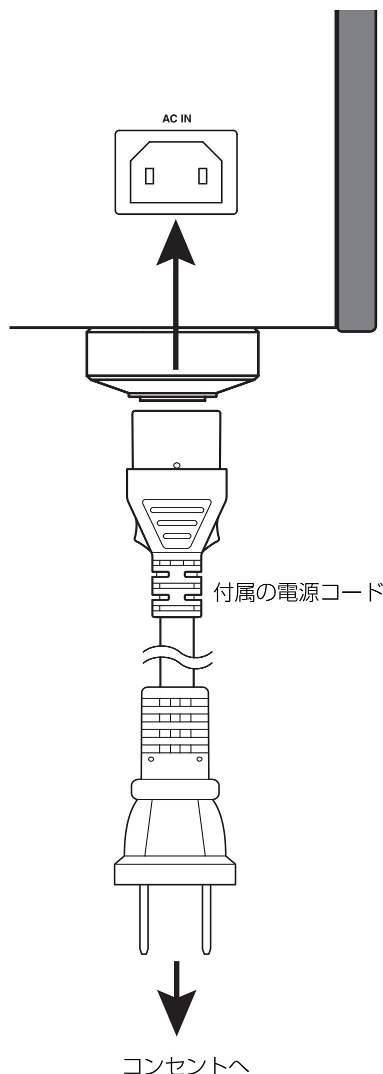
バイワイヤリング接続をするときは、必ずスピーカー側の端子に装着されたショーティング用の金具やケーブルを取り外してください。



バイワイヤリング接続を利用するには、SPEAKERS セレクターを A+B BI-WIRING にします。

■ 電源コードを接続する。

すべての接続が終了したら、電源コードを本機の AC IN 端子に差し込み、家庭用 AC100V、50/60Hz のコンセントに電源プラグを接続します。





接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

■ A-S1000 入力／出力対応表

INPUT セレクター / Output	CD	PHONO	TUNER	LINE1	LINE2	MAIN DIRECT	備考
SPEAKERS	CD	PHONO	TUNER	LINE1	LINE2 PB	MAIN IN	SPEAKERS セレクターが OFF のとき、音声信号は出力されません。
PHONES（ヘッドホン）	CD	PHONO	TUNER	LINE1	LINE2 PB	—	ヘッドホンを PHONES 端子に接続しているとき、SPEAKERS 端子、および PRE OUT 端子から音声信号は出力されません。
PRE OUT	CD	PHONO	TUNER	LINE1	LINE2 PB	—	
LINE2 REC	CD	PHONO	TUNER	LINE1	—	—	

灰色の部分は、本機の BASS、TREBLE、BALANCE、VOLUME の設定に影響されません。

A-S1000
仕様

この章には A-S1000 の技術仕様を掲載しています。



仕様

パワーアンプ部

• 定格出力
（8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz、0.02% THD）
.... 90 W + 90 W
（6 Ω、20 Hz ～ 20 kHz、0.02% THD）
.... 105 W + 105 W
（4 Ω、20 Hz ～ 20 kHz、0.02% THD）
.... 140 W + 140 W

• ダイナミックパワー（IHF）（8/6/4/2 Ω）
.... 105/135/190/220 W

• 実用最大出力
（1 kHz、10% THD、8 Ω）........ 115 W + 115 W
（1 kHz、10% THD、4 Ω）........ 190 W + 190 W

• ダイナミックヘッドルーム
8 Ω .... 0.67 dB

• ダンピングファクター
1 kHz、8 Ω 160

• 最大許容入力
PHONO MM （1 kHz）........ 120 mV
PHONO MC （1 kHz）........ 7 mV
CD 他 .... 2.8 V

• 周波数特性
CD 他 （5 Hz ～ 100 kHz）........ ＋ 0 / － 3 dB
CD 他 （20 Hz ～ 20 kHz）........ ＋ 0 / － 0.3 dB

• RIAA 偏差
PHONO MM （20 Hz ～ 20 kHz）........ ± 0.5 dB
PHONO MC （20 Hz ～ 20 kHz）........ ± 0.5 dB

• 全高調波歪率
PHONO － REC
MM （20 Hz ～ 20 kHz、2 V）........ 0.005%
MC （20 Hz ～ 20 kHz、2 V）........ 0.05%
CD、他 － SP OUT
（20 Hz ～ 20 kHz、90 W / 8 Ω）........ 0.015%

• 混変調歪率
CD、他 － SP OUT
（定格出力、8 Ω）........ 0.02%

• S/N 比（IHF-A ネットワーク）
PHONO
MM （入力ショート）........ 93 dB 以上
MC （入力ショート）........ 85 dB 以上
CD 他（入力ショート）........ 98 dB 以上

• 残留ノイズ （IHF-A ネットワーク）........ 73 µV

コントロール部

• 入力感度／入力インピーダンス
PHONO
MM .... 2.5 mV / 47 kΩ
MC .... 100 µV / 50 Ω
CD 他 .... 150 mV / 47 kΩ
MAIN IN .... 1 V / 47 kΩ

• 出力電圧／インピーダンス
REC OUT .... 150 mV / 1.5 kΩ
PRE OUT .... 1 V / 1.5 kΩ

• ヘッドホン出力／インピーダンス
（1 kHz、32 Ω、0.2% THD）........ 23 mW

• チャンネルセパレーション
CD 他（5.1 kΩ、1 kHz/10 kHz）........ 74/54 dB 以上
PHONO MM
（入力ショート、1 kHz/10 kHz、－ 30 dB）
.... 90/77 dB 以上
PHONO MC
（入力ショート、1 kHz/10 kHz、－ 30 dB）
.... 66/65 dB 以上

• トーンコントロール特性
BASS
Boost/Cut （50 Hz）........ ± 9 dB
ターンオーバー周波数 .... 350 Hz
TREBLE
Boost/Cut （20 kHz）........ ± 9 dB
ターンオーバー周波数 .... 3.5 kHz

• ミュート........ 約 － 20 dB

総合

• 電源電圧 .... AC 100 V、50/60 Hz

• 消費電力 .... 220 W

• アイドル時消費電力 .... 80 W

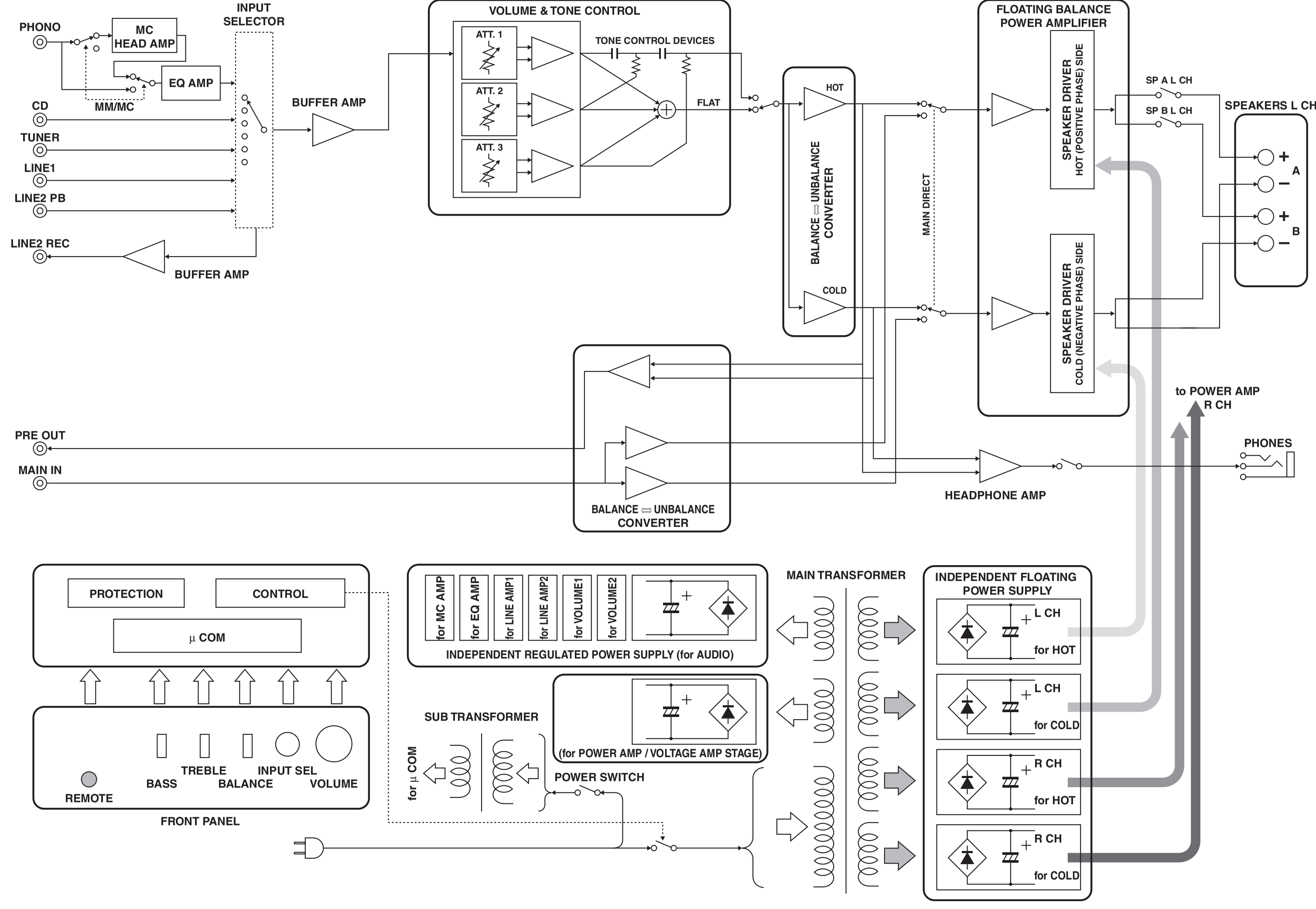
• POWER OFF 時消費電力 .... 0 W

• 寸法 （W x H x D）........ 435 x 137 x 465 mm

• 質量 .... 22 kg

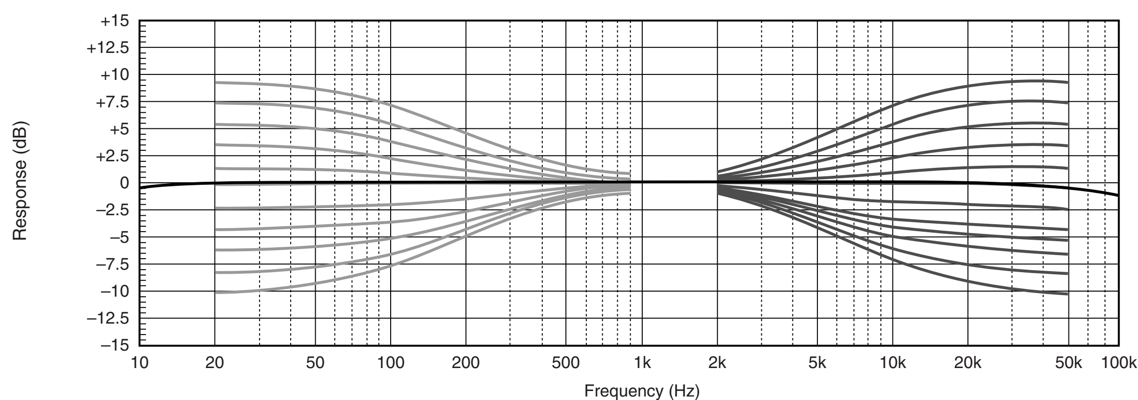
* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ ブロックダイヤグラム

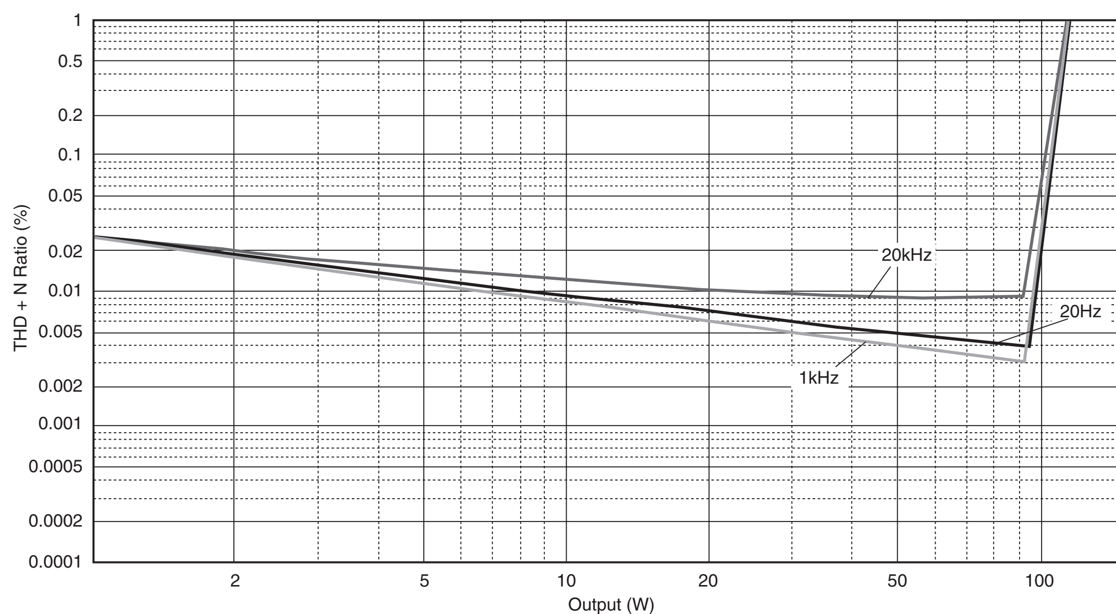


PHONO
CD
TUNER
LINE1
LINE2 PB
LINE2 REC
MC HEAD AMP
MM/MC
EQ AMP
INPUT SELECTOR
BUFFER AMP
BUFFER AMP
VOLUME & TONE CONTROL
ATT. 1
ATT. 2
ATT. 3
TONE CONTROL DEVICES
FLAT
BALANCE ⇔ UNBALANCE CONVERTER
HOT
COLD
MAIN DIRECT
FLOATING BALANCE POWER AMPLIFIER
SPEAKER DRIVER
HOT (POSITIVE PHASE) SIDE
SPEAKER DRIVER
COLD (NEGATIVE PHASE) SIDE
SP A L CH
SP B L CH
SPEAKERS L CH
A
B
PRE OUT
MAIN IN
BALANCE ⇔ UNBALANCE CONVERTER
HEADPHONE AMP
PHONES
to POWER AMP R CH
PROTECTION
μ COM
CONTROL
REMOTE
BASS
TREBLE
BALANCE
INPUT SEL
VOLUME
FRONT PANEL
for μ COM
SUB TRANSFORMER
POWER SWITCH
INDEPENDENT REGULATED POWER SUPPLY (for AUDIO)
for MC AMP
for EQ AMP
for LINE AMP1
for LINE AMP2
for VOLUME1
for VOLUME2
(for POWER AMP / VOLTAGE AMP STAGE)
MAIN TRANSFORMER
INDEPENDENT FLOATING POWER SUPPLY
L CH
for HOT
L CH
for COLD
R CH
for HOT
R CH
for COLD

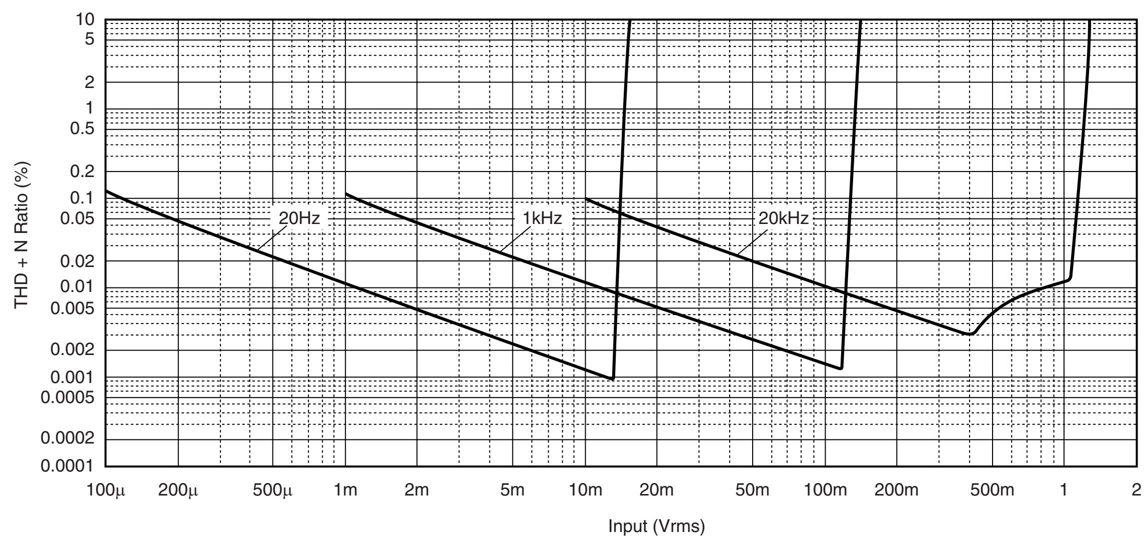
■ トーンコントロール特性



■ 全高調波歪率



■　全高調波歪率（PHONO）



故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合、下記の点をご確認ください。対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

症状	原因	対策	参照ページ
電源スイッチを操作しても電源が入らない	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードを正しく差し込み直してください。	17
	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度オンにしてください。	14
	本機が外部電気ショック（落雷または過度の静電気）を受けた。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください	—
POWER インジケーターが点滅する	ショート等の原因で保護回路が作動した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度オンにしてください。	14
	本機内部の回路に異常がある。	電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ販売店にお問い合わせください	—
電源をオンにするとINPUT インジケーターが点滅し、ボリュームが下がる	ショート等の原因で保護回路が作動した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度オンにしてください。	14
音声が出ない	ステレオピンケーブルが正しく接続されていない。	ステレオピンケーブルを正しく接続してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	14
	入力が正しく選択されていない。	フロントパネルの INPUT セレクター（またはリモコンの入力選択キー）で入力を選択し直してください。	9、12
	SPEAKERS セレクターが OFF になっている。	SPEAKERS セレクターを OFF 以外に切り替えてください。	7
	スピーカーケーブルが正しく接続されていない。	スピーカーケーブルの接続を確認してください。	14
音声が突然出なくなる	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度オンにしてください。	14
片側のチャンネルの音がほとんど出ない	再生機器やスピーカーが正しく接続されていない。	接続を確認してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	14
	左右のスピーカーバランスが正しく調節されていない。	BALANCE つまみで左右のスピーカーバランスを適切に調節してください。	8
低音の再生不良	スピーカーやアンプの＋ / －が逆に接続されている。	＋ / －を確認して、正しく接続してください。	14
ハム音が出る	ステレオピンケーブルが正しく接続されていない。	ステレオピンケーブルを正しく接続してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	14
	レコードプレーヤーのアースが GND 端子に接続されていない。	アースコードを本機の GND 端子に接続してください。	14

症状	原因	対策	参照ページ
レコードの再生音が小さい	レコードプレーヤーを PHONO 以外の端子に接続している。	PHONO 端子に接続してください。	11
	リアパネルの PHONO スイッチの設定が間違っている。	レコードプレーヤーのカートリッジの種類に合わせて、PHONO スイッチを MM または MC の位置に合わせてください。	11
本機に接続している CD プレーヤーやテープデッキにヘッドホンを接続して聴いていると音が歪む	本機の電源がオフになっている。	本機の電源を入れてください。	6
リモコンが操作できなかったり、正常に動作しない	リモコンの操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から6 m 以内、角度30°以内でリモコン操作してください。	6
	本体のリモコン受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明または本機の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて新しいものに交換してください。	12

お手入れのしかた

ベンジンやシンナーなどの化学薬品は使用しないでください。表面を傷めてしまう恐れがありますので、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布に含ませ、よくしぼって拭き取ってください。

木は伸縮しますので、サイドパネルのネジが緩む場合があります。その場合は、ネジを締めなおしてください。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通）  0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月〜土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00〜12:00、13:00〜18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通）  0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受 付 日：月〜土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月〜金曜日 9:00〜19:00　土曜日 9:00〜17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月〜金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00〜17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、
一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1



ヤマハ株式会社

Printed in Malaysia WN63030

YAMAHA

J

プリメインアンプ

安全上のご注意

ヤマハプリメインアンプをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの「安全上のご注意」と取扱説明書、保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■ 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「〜しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

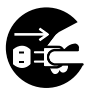
電源/電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



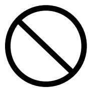
プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

● 異常なにおいや音がする。　● 異常に高温になる。

● 内部に水や異物が混入した。● 煙が出る。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。

● 重いものを上に載せない。

● ステープルで止めない。● 加工をしない。

● 熱器具には近づけない。● 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

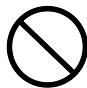


必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。

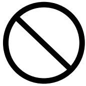
(AV-1)

設置


水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

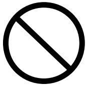

禁止

放熱のため本機を設置する際には:
- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意


禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。


必ず実行

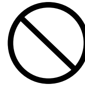
本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。


接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。


禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ


必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

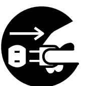
⚠ 注意

電源/電源コード


必ず実行

必ず付属の専用電源コードを使用する。

専用電源コード以外の使用は、火災や感電の原因になります。


プラグを抜く

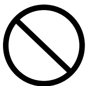
長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。


ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。


禁止

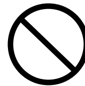
電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。


必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。


禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

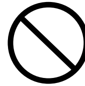
感電や発熱および火災の原因になります。

電池


必ず実行

電池は極性表示(プラス+とマイナス−)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯・保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

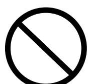
使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置


必ず実行

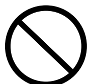
必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。

重いので、けがの原因になります。


禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。


禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。


禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

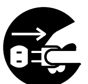
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。


必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

移動


プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意


必ず実行

電源を入れる前や、再生を始める前には、アンプの音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。


禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。


禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。


注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。


禁止

業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ


必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。


禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。


注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

■ 乾電池に関するご注意

- リモコンで操作しづらくなったら、すべての乾電池を新しいものに交換してください。
- 単 3 乾電池をご使用ください。
- 極性（+/ −）があっているかよくご確認ください。乾電池の向きを電池ケース内の表示にあわせてください。
- リモコンを長期間ご使用にならないときは、乾電池を取り外してください。
- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池には、形状や色が同じものでも種類が異なるもの（アルカリとマンガンなど）があります。表示をよく読んで、種類の異なる乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池が液もれした場合は、液に触れないよう注意して廃棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 乾電池を一般のゴミといっしょに捨てないでください。地域のきまりに従って正しく処置してください。

■ リモコンの取り扱いに関するご注意

- 本機とリモコンの間に障害物を置かないでください。
- リモコンに水などの液体をこぼさないでください。
- リモコンを落とさないでください。
- リモコンを下記のような場所に放置したり保管したりしないでください。
  - 浴室などの湿気の多い場所
  - ヒーターやストーブの近くなどの高温になる場所
  - 温度が極端に低い場所
  - ホコリの多い場所
- 本機のリモコン受光部に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっていると、本機をリモコンで操作できないことがあります。このような場合は、照明の向きを変えるか、本機を置く場所を変えてください。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。



音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。



Printed in Malaysia WN63090